

空から叫んでいた  
そう 鳥の言葉で

サッカー好きの少年や 法学士になりたい娘  
おひとよしの果物屋 ジョーク好きの年寄りもいた  
でも すべては破壊され 家も財産も消えてしまった  
いえ たくさんのヒトだって チーチー

作戦終了後 こわれた町にようやくもどってきたひとびと

(砂漠でふるえていたのだ)

瓦礫を積み上げ かつての家に 白旗をかかげる  
どこにでもまだ米兵はいる いつ射撃されるかわからぬ不安  
(殺された父親・息子の遺体は瓦礫の下に埋まったままで)

それから一年 今 米軍に包囲されたままの ラマディの町一帯  
ブルドーザーでつぶされ 跡形なくなつた 小学校 商店 アパート  
アルラシードホテル 警察署まで チーチー  
(米軍を空輸しつづけるヒノマル軍用機)

世界の報道はラマディに背を向けたまままだ  
ヒトってわからない ヒトっておかしくない?  
チーチー チーチー

## أرحو أن السلام على العراق



### 詩の作者紹介

石川逸子 (いしかわ・いつこ) 1933年生。

1982年よりミニ冊子『ヒロシマ・ナガサキを考  
える』編集発行。最近の著書 ● 御庄博美・石川逸  
子『ぼくは小さな灰になって…。あなたは劣化ウラ  
ンを知っていますか』(西田書店) ● 詩集『定本・  
千鳥ヶ淵へ行きましたか』(影書房) ● 『日本の  
戦争』と詩人たち』(影書房)

# 鳥のつぶやき

石川逸子

ヒト語はなせたら しらせたい チーチ

二〇〇五年一月六日にはじまり

米軍の「鋼のカーテン」作戦で

ずたずたにされた イラクの二つの町

カイム ハディッサ 一帯のことを

まず すさまじい爆撃があつた

変電所 隣町をつなぐ唯一の橋 病院 浄水場 商店街

水も電気もとだえた町は 米軍と かいらい軍の砲撃を浴び

やがて民家から民家へ しらみつぶしの突撃

着の身着のまままで ひとびとは追い出され

生まれたばかりの赤ん坊をかかえ

泣きながら逃げていく母親を見た

軍靴でなぐられ

しばられ転がされた医師たちもいた チーチ

やめて！

年老いたおばあさんを家から追い出すのは

やめて！ 学校や郵便局 民家を 砲撃するのは！



※カット中、右のアラビア語は、「アッサラーム アレイクム」。「こんにちは」の意。左上のアラビア語は、「アルジュ アン アッサラーム アッラー アル・イラーキ」。「イラクに平和を」の意。